

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
リハビリテーション学部 理学療法学科	5人	3人	1人	1人	10人	6人	10	0人	143人	17人	
計	5人	3人	1人	1人	10人	6人	10	0人	143人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の 基盤 人間と生活 社会の理解	あすなろう	30	久保 温子 他	専任
		地球環境・SDGs 入門	15	橋本 健夫 他	兼任
		関連職種連携入門	15	葛原 誠太 他	兼任
		心理学入門	15	橋本 優花里	兼任
		現代社会と倫理	15	井本 浩之	兼任
		人間論と現代思想	15	井本 浩之	兼任
		文学と言語	15	宇賀神 一	兼任
		生涯学習論	15	上野 景三	兼任
		肥前の歴史と文化	15	松尾 弘毅	兼任
		脳と認知科学	15	松尾 萌美	兼任
		法学	15	児玉 弘	兼任
		日本国憲法	15	池田 宏子	兼任
		グローバル化と異文化共生	15	Trinh Thi Ngoc Lan	兼任
		変わりゆく国際社会を 生きる	15	田中 豊治 他	兼任
		多文化社会学	15	田中 豊治 他	兼任
		くらしと経済	15	権藤 幸憲	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の 基盤 人間と生活 社会の理解	ジェンダー論	15	藤田 由美子	兼任
		生命のしくみ	15	辻田 忠志	兼任
		生物と環境	15	北垣 浩志	兼任
		身近な生活の化学	15	安田 みどり	兼任
		統計学の基礎	15	上山 和俊	兼任
		身近な世界の物理学	15	福井 市男	兼任
		地域環境科学	15	飯盛 啓生	兼任
		健康スポーツ科学	15	平野 貴章	兼任
		フィットネス・スポーツ	15	甲木 秀典 他	兼任
		ウェルネス・スポーツ	15	近藤 芳昭 他	兼任
		データサイエンス入門	15	古賀 浩二 他	兼任
		データサイエンス演習	15	山下 義行 他	兼任
		情報処理演習	15	古賀 浩二 他	兼任
		英語コミュニケーションⅠ	15	園部 ニコル 他	兼任
		英語コミュニケーションⅡ	15	園部 ニコル 他	兼任
		SDGs 英語	15	園部 ニコル	兼任
		World Issues (世界事情)	15	園部 ニコル 他	兼任
		医学英語	8	坂本 飛鳥	専任
		語学研修	15	園部 ニコル	兼任
		中国語	15	周 嵐 他	兼任
		韓国語	15	藤 知映	兼任
		日本語Ⅰ	15	周 嵐	兼任
		日本語Ⅱ	15	Trinh Thi Ngoc Lan	兼任
		日本語Ⅲ	15	福元 健志	兼任
		日本語検定Ⅰ	15	周 嵐	兼任
		日本語検定Ⅱ	15	Trinh Thi Ngoc Lan	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の 基盤 人間と生活 社会の理解	栄養学へのとびら	8	福山 隆志 他	兼任
		社会福祉学へのとびら	8	黒田 研二 他	兼任
		スポーツ科学へのとびら	8	栗原 淳 他	兼任
		リハビリテーション学への とびら	8	久保 温子 他	専任
		保育学・教育学へのとびら	8	田中 麻里 他	兼任
		心理学へのとびら	8	岡嶋 一郎 他	兼任
		看護学へのとびら	8	中島 洋子 他	兼任
		データサイエンスへの とびら	8	井本 浩之 他	兼任
		人間関係論	15	原口 健三	兼任
		障害者福祉論	15	佐々木 隆夫	兼任
		レクリエーション論	15	押川 武志	兼任
		園芸療法実習	30	小浦 誠吾 他	兼任
		園芸論	15	小浦 誠吾 他	兼任
		園芸療法論	15	小浦 誠吾 他	兼任
		ガーデニング	15	小浦 誠吾 他	兼任
		公衆衛生学	15	青柳 潔 他	兼任
		関連職種連携論	15	大田尾 浩 他	兼任
		教育基礎論	15	上野 景三 他	兼任
		リハビリテーション教育学	15	原口 健三 他	兼任
		専門基礎	人間の構造と 機能及び心身 の発達	解剖学Ⅰ	15
解剖学Ⅱ	15			宮本 明	専任
解剖学実習	23			宮本 明 他	専任
生理学Ⅰ	15			岸川 由紀	専任
生理学Ⅱ	15			岸川 由紀	専任
生理学実習	23			岸川 由紀 他	専任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門基礎	人間の構造と 機能及び心身 の発達	人間発達学	15	久保 温子	専任
		運動学Ⅰ	15	坂本 飛鳥	専任
		運動学Ⅱ	15	坂本 飛鳥	専任
		運動学実習	23	坂本 飛鳥	専任
	疾病と障害の 成り立ち及び 回復過程の促 進	病理学	15	濱田 信之	兼任
		内科学Ⅰ	15	庄野 菜穂子	兼任
		内科学Ⅱ	15	庄野 菜穂子	兼任
		老年学	15	押川 武志 他	兼任
		整形外科学Ⅰ	15	青柳 潔	専任
		整形外科学Ⅱ	15	青柳 潔	専任
		神経内科学Ⅰ	15	庄野 菜穂子	兼任
		神経内科学Ⅱ	15	庄野 菜穂子	兼任
		小児科学	15	松尾 宗明 他	兼任
		精神医学Ⅰ	15	小松 洋平 他	兼任
		精神医学Ⅱ	15	小松 洋平 他	兼任
		感染予防・救急法	8	諸岡 健一郎	兼任
		臨床薬学の基礎	15	窪田 寿彦	兼任
		画像評価学	15	宮本 明	専任
		リハビリテーション栄養学	15	三嶋 敏雄	兼任
		疾病予防と健康管理	8	久保 温子 他	専任
保健医療福祉 とリハビリテ ーションの理 念	リハビリテーション概論	15	大田尾 浩 他	専任	
	リハビリテーション医療	15	大川 裕行 他	専任	

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門	基礎理学 療法学	理学療法学概論	8	八谷 瑞紀	専任
		基礎理学療法学	15	大川 裕行	専任
		理学療法学研究法	15	宮原 洋八	専任
		理学療法学研究法演習	15	久保 温子 他	専任
	理学療法 管理学	理学療法管理学	15	岸川 由紀	専任
	理学療法 評価学	理学療法評価学Ⅰ	15	大田尾 浩 他	専任
		理学療法評価学Ⅱ	15	久保 温子	専任
		理学療法評価学Ⅲ	15	大田尾 浩	専任
		理学療法評価学実習	23	久保 温子 他	専任
	理学療法 治療学	物理療法学	15	中村 雅俊	専任
		物理療法学演習	15	中村 雅俊	専任
		運動療法学	15	大川 裕行	専任
		運動療法学実習	23	大川 裕行 他	専任
		運動器障害理学療法学	15	坂本 飛鳥	専任
		運動器障害理学療法学実習	23	坂本 飛鳥 他	専任
		神経障害理学療法学	15	八谷 瑞紀	専任
		神経障害理学療法学演習	15	八谷 瑞紀	専任
		神経障害理学療法学実習	23	八谷 瑞紀 他	専任
		内部障害理学療法学	15	八谷 瑞紀	専任
		内部障害理学療法学演習	8	八谷 瑞紀 他	専任
		発達障害理学療法学	15	久保 温子	専任
		発達障害理学療法学演習	8	久保 温子 他	専任
		老年期障害理学療法学	15	宮原 洋八	専任
		日常生活活動学	15	中村 雅俊 他	専任
		日常生活活動学実習	23	中村 雅俊 他	専任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門	理学療法 治療学	義肢装具学	15	大川 裕行	専任
		理学療法学特論 I	8	久保 温子 他	専任
		理学療法学特論 II	8	久保 温子 他	専任
	地域理学 療法学	地域理学療法学	15	宮原 洋八	専任
		地域理学療法学演習	15	宮原 洋八	専任
	臨床実習	臨床実習 I	45 時間	久保 温子 他	専任
		臨床実習 II	45 時間	久保 温子 他	専任
		臨床実習 III	180 時間	久保 温子 他	専任
		臨床実習 IV-1	360 時間	久保 温子 他	専任
		臨床実習 IV-2	360 時間	久保 温子 他	専任
	卒業研究	卒業研究	15	久保 温子 他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
臨床実習 I	1 年後期	リハビリテーション概論	1 年前期
		理学療法学概論	1 年前期
		リハビリテーション医療	1 年後期
		基礎理学療法学	1 年後期
通所リハビリテーションの見学と地域理学療法の理解（実習 II）	2 年後期	臨床実習 I	1 年後期
		地域理学療法学	3 年前期
		地域理学療法学演習	3 年後期
		老年期障害理学療法学	3 年後期
理学療法評価の実践と治療計画の作成（実習 III）	3 年後期	理学療法評価学 I	1 年後期
		理学療法評価学 II	2 年前期
		理学療法評価学 III	2 年前期
		理学療法評価学実習	2 年後期
理学療法評価の実践と治療計画の作成並びに実践（実習 IV-1, IV-2）	4 年前期	物理療法学	2 年前期
		物理療法学演習	2 年後期
		運動療法学	2 年前期
		運動療法学実習	2 年後期
		運動器障害理学療法学	3 年前期
		運動器障害理学療法学実習	3 年後期
		神経障害理学療法学	3 年前期
		神経障害理学療法学演習	3 年前期
		神経障害理学療法学実習	3 年後期
		内部障害理学療法学	3 年前期
		内部障害理学療法学演習	3 年後期
		発達障害理学療法学	3 年前期
		発達障害理学療法学演習	3 年後期
		日常生活活動学	3 年前期
日常生活活動学実習	3 年後期		
義肢装具学	2 年後期		

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	西九州大学リハビリテーション学部点検・評価専門委員会	
委員名（委員長）	小浦誠吾（委員長）、久保温子、小松洋平、松谷信也、岸川由紀、中村雅俊	
組織の開催頻度	1年に一度（3月に実施：2025年度は2026年3月26日に開催）	
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析	
	・ 教育改善の研修会(FD研修会など)の開催企画	
	・ 外部認証評価による定期的な自己点検評価の実施	
自己点検・評価結果の公表	HPで公表	

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	西九州大学全学教務委員会
	委員構成等	教務部長、学科毎に2名の教員（内1名は教授）等
	改善の仕組みの実際	毎年度、シラバス作成要領の更改有無について委員会内で確認を行っている。また、教務委員の中からシラバスチェック者を選出し、第三者によるチェックを行っている。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

<p>今年度の自己点検・評価組織による評価として、自己点検・評価及び第三者評価の結果として十分な評価ができる結果であると考えられる。本専攻は2022年度にリハビリテーション教育評価機構の評価認定審査を受け、リハビリテーション教育に必要な施設基準およびカリキュラムを提供、実施できる養成施設として認定を受けている。また、専任教員の人数、講義内容、臨床実習関連、シラバスについても理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則を遵守し、設定・運用が行われている。講義内容に関しても学生アンケートの内容を講義内容に反映させることや、不足した備品や経年劣化している物品などを順次、購入することや学習環境を進め、学生の満足度の向上に努めている。また、コロナ禍により開催ができていなかった対面でのパイザー会議も今年度より再開をし、学外実習先の指導者の先方と実習に関係する双方での課題や今後のビジョンについて共有を行った。また実際の実習期間中には電話やメールなどのオンラインツールでのコミュニケーションおよび実習地訪問を通し、密なコミュニケーションを取っている。このコミュニケーションを通して、今後の学生に対する指導および臨床に繋がるシームレスな教育についての議論を行い、今後のさらなる教育内容の充実を目指している。また、実習前の客観的臨床能力試験（OSCE）では学外実習先の先生方の協力を得ながら学生の教育に努めている。また、多様化する学生の希望に沿うためにさらなる学外実習先の拡充を目指し、新規実習先の拡充にも尽力をしている。以上より、2025年度の自己点検・評価は「十分な評価」となると考えている。</p>
--